第 9 号　本小の教育「授業研修会」　6年特設

・インクルシーブ教育 『 脳の引き出し 』

今回の特設授業「脳の引き出し」は、６年１組（仲里紗弥）で実施しました。高学年のクラスでの【授業目標】は、「①自分のことを知る。②友達のことを知る。③支え合うことの大切さを知る。」の３点です。子供達は、２年前の４年生の時に紗弥先生に受け持たれています。そのせいなのか「フワフワ言葉」や「セロトニン」は、スムーズに出てくる。

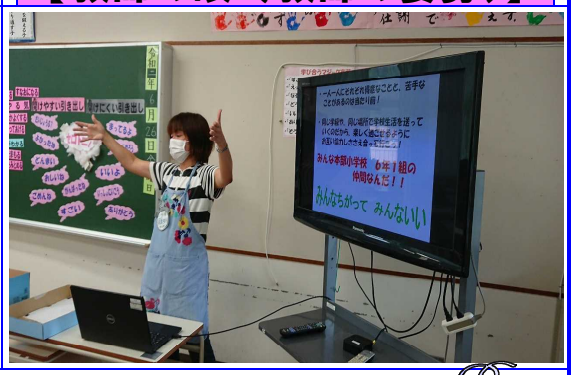
学級の支持的風土は良く、子供達と担任とのラポートも良い。今後、６学年全体での取り組みに期待できる予感がする。学校生活のあらゆる場面でリーダーとして頑張ろう！

■ 6年1組（特設）「河津 さゆり（仲里 紗弥）」先生 5校時目

【児童の手（学習規律）】

【教室の色（支持的風土）】

【教師の眼（教師の姿勢）】

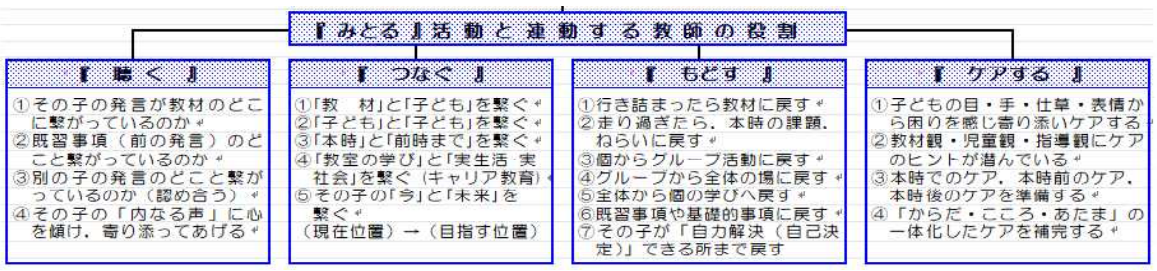


『素直さ・明るさ・向上心』を モットーに6年担任として、ガンバレ！ さ～や 先生

【●挙手の仕方、●聴く・書く姿勢】　【●発表の仕方、●支持的風土の醸成】　【●授業のまとめ、●担任の振り返り等】

■では、「校内研 テーマ（仮説）」や、「県・学推 の取り組み」との 関わりは ？ どうなの ？ ねぇ ・・・ ②

●教師の役割
1. き く
2. つ な ぐ
3. も ど す
4. ケアする



■【脳の引き出し】

- ●「友達と一緒にいると楽しい」「仲間になりたい」＜脳は、相手（先生や友達）がいることによって機能する仕組み＞
- ●「友達と一緒に学ぶこと、そして友達を大切にすることが、自分の能力を上げる事に繋がる」その環境整備は教師の役割。
- ●「好きな友達がいることで、子供は力を伸ばしていきます。」「自分も皆の力を伸ばす存在である為に、頑張る必要がある。」
- ●「自分がいることによって、周りの人も成長している」脳は、そのような反応をする仕組みになっている事を理解させよう。
- ●「子供が自分の力で立ち直れないとき【グレる】」。厳しく叱ることによって立ち直れるのは、自分の責任でない場合。
  [例えば]　・指導者がしょちゅう変わる。夫婦喧嘩が多い。友達と喧嘩をした。下の兄弟の面倒を見なければならない。
  ［この場合］・気持ちは、決して後ろ向きでないのに、自分以外の責任でうまくいかないので、『君は力があるのに、こんなことでくじけてどうするんだ！』と、前向きに叱ることです。
- ●「ウソをつかない内面的な美しさ」が大切である。　「ウソをつくことは、あなた自身の内面的な美しさを台無しにします。」
  ・人間は、「自己保存の本能」があるため、苦しくなると思わずウソをつくことがあります。
- ●「否定語は、流れを変える。」「難しい！」「無理だ！」⇒ 否定語は、「自己保存の本能」の流れを、無意識のうちに変える。
- ●「学習の場面では、『なるほど』『そうだよね』『わかった』の３つの会話を確認しながら進めていくことが大切である。」
- ●「子供が学習した内容を、子供に声に出して云わせる（振り返り）のも、ある種の【成功体験】学習になります。」
- ●「人間の脳は、『本能』を基盤に『気持ち』と一体で機能する。 ⇒「本能」とは、「生きたい」「知りたい」「仲間になりたい」
- ●「自主性は、自分で考えたことを、自分で成し遂げることが脳にとってのご褒美である。」⇒ 脳の中の「自己報酬神経群」
- ●「一番の方法は、『成功体験』を作ること。 ⇒ 昨日学んだ内容を毎日１０分程度の易しいテストをして理解を繰り返す事。
- ●「かつて、イチロー選手は、同じ時間に起き、同じ時間に、同じ食事を摂り、同じ時間にスタジアムに向かったらしい。」
- ●「規則正しい生活をすれば、頭がよくなるんだよ。」「習慣づけること、ルーティン化する。」「統一・一貫性の学習習慣を」

【想い】　「脳の引き出し」⇒「脳を活性化させ」⇒「子供の脳を育てる」⇒　深い「学び・育ち」へ！

○「教師のモットー」⇒「難しい事を易しく、易しい事を楽しく、楽しい事を深く」仕掛けるのは教師。
○「教師の授業構想」⇒「教えねばを、教えたいに。教えたいを、学びたいに」学ぶ主体は子供達だ。
○「教師の役割とは」⇒「【聴く】【繋ぐ】【戻す】【ケア】する」自分探しの旅をコーディネートする。
○「教師は五者たれ」⇒「①【学者たれ】②【医者たれ】③【易者たれ】④【役者たれ】⑤【行者たれ】」
○「教師も共に育つ」⇒「子供を尊敬し、子供自身の力を信じ、共に育つ【共育】のまなざしを持つ」
○「師弟の啐啄同機」⇒「啐：親鳥が卵の殻の外から突く。啄：雛鳥が卵の中から突く。同時の時に・・」

校長より